

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
大豆	吸実性カメムシ類	並	並
ばれいしょ	アブラムシ類 ジャガイモガ ヨトウムシ類、オオタバコガ	やや多 やや少 やや少	やや多 やや少 やや少
いちご (本圃)	うどんこ病 炭疽病 (<i>G. cingulata</i>) アブラムシ類 ハダニ類 ハスモンヨトウ	並 並 多 並 並	並 並 多 並 並
ブロッコリー	コナガ ハスモンヨトウ オオタバコガ	やや少 やや少 やや少	やや少 やや少 やや少
レタス	ハスモンヨトウ オオタバコガ	やや少 やや少	やや少 やや少
かんきつ	青かび病、緑かび病 ミカンハダニ	やや少 並	やや少 並

【発生予報】 本文の () 内は平年値

大豆

1. 吸実性カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(9筆)の結果、寄生株率は3.6%(2.9%)、株当たり虫数は0.0頭(0.1頭)、発生圃場率は33.3%(28.1%)であった。

イ 10月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、寄生株率は46.0%(32.8%)、株当たり虫数は1.4頭(0.5頭)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

一部の薬剤で感受性の低下が報告されているミナミアオカメムシの発生が圃場でみられているので、薬剤の選定にあたっては十分注意する。

ばれいしょ

1. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生株率は1.4%(0.5%)、発生圃場率は25.0%(10.1%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

下位の葉裏に寄生が多いので、薬剤散布は葉裏に薬液が十分かかるようにする。

2. ジャガイモガ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(被害株率0.4%、発生圃場率10.1%)。

3. ヨトウムシ類(ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ)、オオタバコガ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(20筆)の結果、被害株率は0.5%(7.6%)、発生圃場率は20.0%(44.3%)であった。

イ ハスモンヨトウのフェロモントラップ(諫早市)による誘殺数は9月下旬以降平年より少なく推移している。

ウ オオタバコガのフェロモントラップ(諫早市)による誘殺数は、9月下旬以降平年並で推移している。

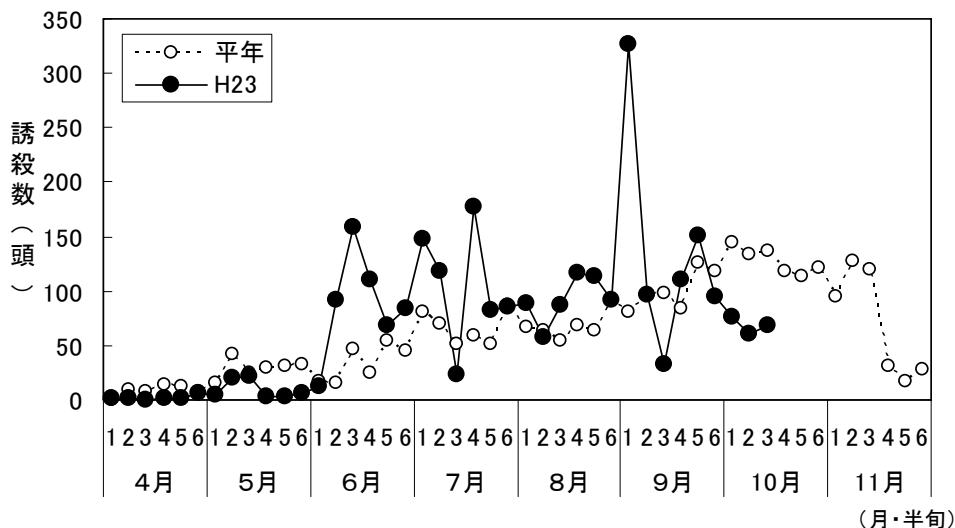


図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越町)

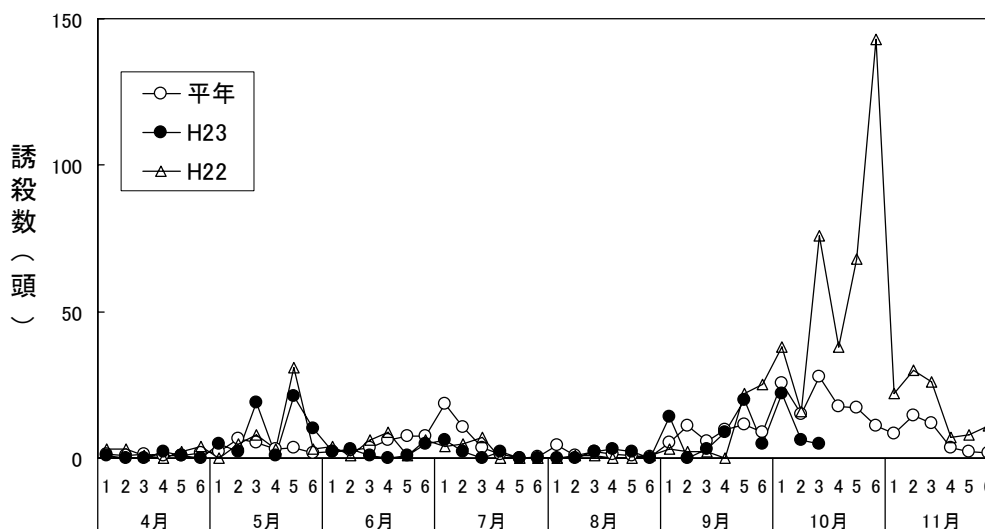


図 オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越)

※H22より粘着板からファネルトラップに変更

平年: H13~H22の平均値(最大・最小除く)

(月・半旬)

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発生を認めなかった(過去10年平均発病株率0.0%、発生圃場率0.4%)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 果実への感染を防ぐには、定植後から11月下旬までの予防散布に重点をおく。

イ 罹病葉や不要な下葉はできるだけ除去し、圃場外へ持ち出し、処分する。

ウ 薬剤は、古葉等を除去処分した後に、葉裏や下位葉にも薬剤がむらなくかかるように十分量を散布する。

エ 薬剤耐性菌発達の防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病株率は0.0%(0.1%)、発生圃場率は3.7%(6.5%)であった。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 多

(2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は5.9%(1.1%)、発生圃場率は33.3%(13.0%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 特に花のがくに寄生しやすいので、発生を認めたら初期のうちに防除を行う。

イ 薬剤のかけむらがあると防除効果が低下するので、葉裏まで十分に散布する。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は1.0%(2.0%)、発生圃場率は14.8%(18.5%)であった。

5. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(27筆)の結果、食害株率は8.1%(10.0%)、寄生株率は3.0%(2.0%)、発生圃場率は40.7%(76.4%)であった。

ブロッコリー

1. コナガ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(過去4ヵ年平均寄生株率3.6%、発生圃場率31.3%)。

2. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は1.0%(過去4ヵ年平均11.7%)、発生圃場率は25.0%(60.4%)であった。

3. オオタバコガ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(過去4ヵ年平均寄生株率0.6%、発生圃場率8.3%)。

レタス

1. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

- ア 10月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(寄生株率0.8%、発生圃場率14.4%)。
- イ ハスモンヨトウのフェロモントラップ(諫早市)による誘殺量は、9月下旬以降平年より少なく推移している(じゃがいもの項参照)。

2. オオタバコガ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

- ア 10月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(寄生株率0.5%、発生圃場率7.4%)。
- イ オオタバコガのフェロモントラップ(諫早市)による誘殺量は9月下旬以降平年並で推移している(じゃがいもの項参照)。

かんきつ

1. 青かび病、緑かび病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

- ア 10月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発生は見られなかった(発病果率0.0%、発生圃場率1.6%)。
- イ 向こう1か月の降水量は平年並の見込みである。

2. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は3.4%(4.7%)、発生圃場率は38.5%(34.3%)であった。

【参考】
気象

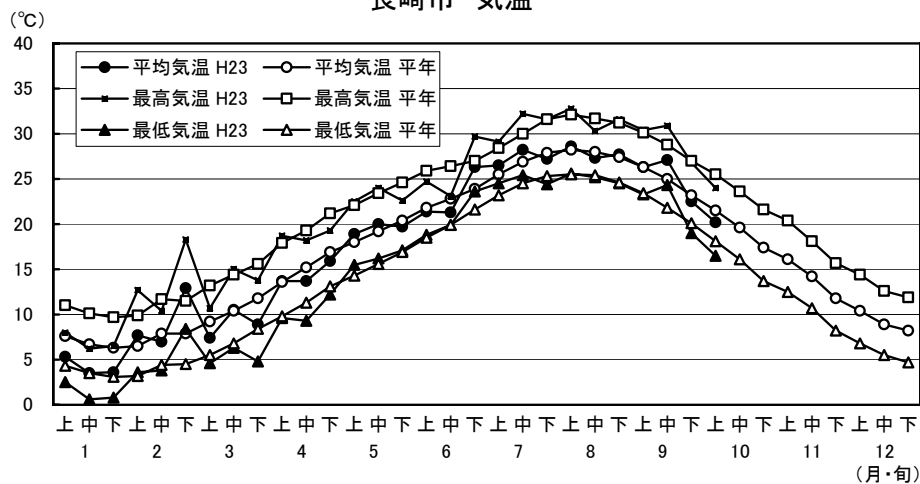
(平成23年10月14日発表 1か月予報 福岡管区気象台)
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	40	40
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

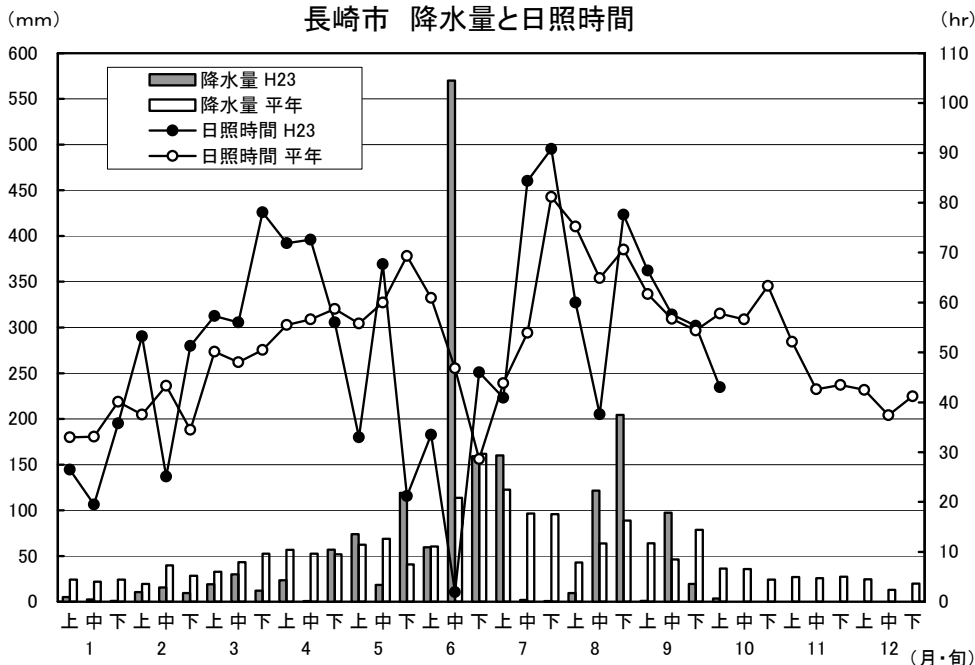
※予報対象地域：九州北部地域

平成23年の気象経過 (長崎海洋気象台)

長崎市 気温



長崎市 降水量と日照時間



○病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027